



希 柏の葉だより

市川市立第五中学校



第9号 令和6年1月16日

「学校教育目標」

学ぶ楽しさを知り、生きる喜びが分かる、心身ともにたくましい生徒の育成を目指す

～希望を持つ年 2024年～



2024年新たな年を迎えました。今年が生徒たちにとって素晴らしい年になりますよう、教職員一同お祈り申し上げます。

9日の始業式で、「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」という話をしました。

今年が2024年です。あと77年後は2101年となり、22世紀となります。人生100年の時代ですから、現在の中学生は22世紀の世界を見ることが出来ます。22世紀は統計上では、日本の人口は今の1億2千万人の約半分、6千万人になるといわれています。また、地球温暖化が進み、気温が40度を超える日が日本中で観測されるといいます。しかし、心配はいりません、昔の人々は、人間が空を飛ぶことや、遠くの人に声や思いが届くことを夢見て、想像したことだと思います。それが今となっては、飛行機や携帯電話・スマートホンという形になって実現しています。このように、これからの未来は、ここにいる皆さんが想像した世界になっていきます。22世紀に向けて、よりよい世界を皆さんが想像して、作り上げていってください。また、近年は人工知能AIの急速な発達があります。これにより、科学・社会の変化が加速されることも予測されています。予測できない未来を生き抜くためには、一人一人が未来を創造し、実現していく強い気持ちが大切です。

さて、1月は受験シーズンのスタートです。先週実施された大学共通テストに始まり、17、18日は県内私立高校入試、22日、23日は都内私立高校と受験生にとっては、今までの受験勉強の成果を発揮する大切な時期になります。受験勉強は家庭学習の延長上にあり、多くの生徒たちにとっては、避けては通れない道標です。しかし上級学校進学はあくまで手段です。高い志をもち、一人一人が自分を大切に、どう社会に貢献できるかが大切です。自分の夢・目標は遥か先にあることを忘れないようにしてください。今年がインフルエンザの流行が今後さらに懸念されています。インフルエンザの療養期間は発熱後5日間、さらに解熱後2日間です。インフルエンザも昨年まで十分警戒していた新型コロナと基本的には同じ感染経路です。飛沫感染・接触感染に加え、密な環境ではエアロソルを介した感染が起こりえます。自分で自分の身を守ることの徹底をもう一度確認していきましょう。

後期学校評価の結果と前期との比較・来年度への展望

12月の後期学校評価アンケート調査のご協力をありがとうございました。6月に実施したアンケート結果と併せてごらんください。(数値は肯定的な意見1と2の合計の%)

	質問項目	今回 12月	前回 6月	昨年度 12月
1	お子さんは授業がわかりやすいと言っている。	79%	78%	75%
2	お子さんは不明な点に興味を持って学習に取り組んでいる。	54%	53%	60%
3	お子さんは家庭学習の習慣が身についている。	50%	51%	58%
4	お子さんは自分からすすんであいさつをしている。	83%	84%	87%
5	お子さんは自分の役割に責任をもって取り組んでいる。	87%	87%	88%
6	お子さんは誰とでも優しく関わっている。	92%	93%	95%
7	お子さんはすすんで(外で遊ぶなど)体を動かしている。	60%	62%	55%
8	お子さんは自らの安全に気をつけて生活している。	93%	92%	94%
9	お子さんは規則正しい生活習慣が身についている。	72%	69%	68%
10	学校は学校経営方針について、理解されるよう努めている。	81%	81%	79%
11	学校は保護者や地域とともに、子どもを育てる取組みを進めている。	83%	82%	80%
12	学校は保護者の思いや願いに対して適切に対応している。	84%	80%	81%
13	学校は特色ある取組や教育を進めている。	65%	66%	65%
14	学校は子ども一人一人に適切な指導や支援を行っている。	79%	75%	71%
◎	お子さんは意識して「時間を守ろう」としている。	76%	79%	78%
◎	お子さんは意識して「清掃をしっかりやろう」と思っている。	68%	70%	69%

◎の項目は「五中ブロック小中連携学習生活規律」の項目です。

・3の家庭学習の習慣については、学校・学年で取り組んでいます。授業で学んだ内容を家庭で振り返る習慣をこころがけていきましょう。

・10～14の信頼される学校の項目は今回、上昇みですが、アンケートの提出数、記述欄の回答数などは低下みです。学校からの発信方法について検討・工夫していきます。

・五中生は友人関係・教職員との関係、学校での生活などは肯定的に捉えている生徒が多くいます。今後も一人一人の良さを大切に自己肯定感を高めていきます。



<文責：校長 川俣>